

『色と高齢者に関する実態調査』

60 歳以上の 93%が『色の見えづらさを感じない』と回答

**加齢で視覚機能は低下するはずが『年齢を重ねるにつれ、自覚がなくなる』結果に
「色の見えづらい」エピソードは“信号機や道路標識が見えにくい”など、交通関連が最多**

公益社団法人 色彩検定協会は「改正道路交通法の施行」や「高齢者ドライバー問題」などに社会的関心が集まる中、
「色と高齢者に関する実態調査」を行いましたので、その結果を報告いたします。

本調査では、60 代以上の男女 1,000 人と 30 代の男女 200 人を対象にインターネットリサーチを実施。「色の見えづらさ」や「色の見間違い」の質問に対して、60 歳以上の 93%が「色の見えにくさを感じない」と回答。また、年齢が上がるにつれ、その傾向が高くなる結果となりました。加齢によって視覚機能は年々低下していくにも関わらず、高齢者にその実感や自覚が低い可能性が調査結果から伺えました。

■調査結果サマリー

加齢で視覚機能は低下するはずが 93%の高齢者が「色の見えづらさを感じない」と回答、自覚・実感が低い結果に

加齢により眼の機能は衰えていく中、60 歳以上の高齢者の 93%が「色の見えづらさ」や「色の見間違い」を“感じたことがない”と回答。また、60 代、70 代、80 代と年代が上がるごとにその回答が多くなる結果に。「色の見えづらさ」「色の見間違い」に対して高齢者の自覚や実感が低くなる傾向が伺えました。

「色の見えづらさを感じた」具体的エピソードは“信号や道路標識が見えにくい”など、自動車運転や交通関連が最多

「色の見えづらさ」や「色の見間違い」の経験があると回答した 60 歳以上の方にその具体的なエピソードを聞くと「自動車運転など交通関連」の回答が最多。“信号や道路標識が見えにくい” “赤信号が青信号に見えて危うく事故になりかけた”などの意見もありました。

【安全】を感じる色は「高齢者＝緑色」「30 代＝青色」など、イメージする色に世代間ギャップも

【危険】【注意】【安全】で想起する色について 60 歳以上と 30 代の回答では、高齢者は「危険＝赤色」「注意＝黄色」「安全＝緑色」、30 代は「危険＝赤色」「注意＝黄色」「安全＝青色」と【安全】で違う回答。また他にも「地味と感じる色」の質問では「高齢者＝灰色」「30 代＝茶色」など世代間ギャップが伺える結果もありました。

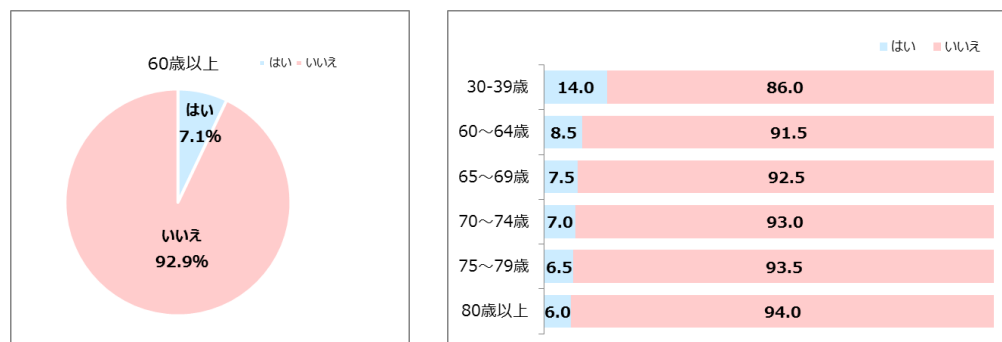
<アンケート調査概要>

■調査名称：色と高齢者に関する実態調査 ■調査期間：2017 年 2 月 10 日～14 日

■調査方法：インターネットリサーチ ■調査対象：全国 60 代・70 代・80 代 男女 1,000 人、30 代の男女 200 人（有効回答数 1,200 人）

Q. あなたは直近1年間で「色の見えづらさ」を感じたり、「色の見間違い」をした経験はありますか

※60歳以上 N=1000、30代：N=200



直近の1年間で「色の見えづらさ」「色の見間違い」の経験を聞くと、60歳以上の92.9%が「色の見えづらさを感じない」と回答。年代別では60~64歳(91.5%)、65~69歳(92.5%)、70~74歳(93.0%)、75~79歳(93.5%)、80歳以上(94.0%)。30代は86.0%と低くなり、60歳以上になると年代が上がるごとに「色の見えづらさ」「色の見間違い」の自覚や実感が低くなる傾向が伺えました。

Q. 「色の見えづらさ」「色の見間違い」の具体的なエピソードを教えてください(自由回答)

■自由回答 カテゴリー別ランキング

■自由回答例

「自動車運転など交通関連」の色の見間違い、見えづらさ	23.4%
「視力・目のかすみ」が原因の色の見えづらさ	15.6%
「ファッション・小物」などの色の見間違い	12.5%
「テレビ・パソコン画面」の色の見えづらさ	10.9%
明るい場所での識別が難しい	9.4%
識別が難しい色がある	6.3%
暗い場所での識別が難しい	4.7%
色の濃淡の識別が難しい	3.1%
その他	14.0%

- 夜間に自家用車を運転中、二つ先の歩行者用信号が赤か青かが分かりづらくなって来た。(62歳・男性)
- 信号機の青矢印が見えなくて、ブレーキをかけてしまうことが頻繁にある。(64歳・男性)
- 自動車の高齢者講習の運転実習で進行方向の標識の色が灰色に見えたことです。(78歳・女性)
- ソックスの色で 黒と紺の違いがわかりにくくなった。(81歳・女性)
- ワイシャツの色が自分では薄い青だと思っていたのが、みんなから緑だと指摘されたこと(70歳・男性)

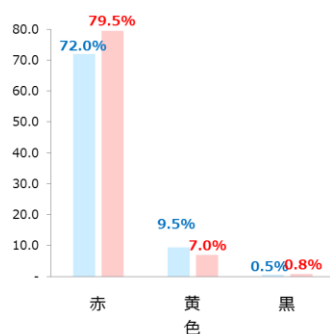
「色の見えづらさ」「色の見間違い」を経験した60歳以上の方に具体的なエピソードを聞くと、カテゴリー別では信号機や道路標識の色が見えにくいなど「自動車運転など交通関連」が23.4%で最多。次いで、文字が見えづらいなど「視力や目のかすみ(15.6%)」「ファッション・小物(12.5%)」のエピソードが上位に。回答の中には『夜間に運転中、歩行者用信号が赤か青かが分かりづらくなってきた』『信号機の青矢印が見えなくて、ブレーキをかけてしまうことが頻繁にある』など、交通事故に繋がりがかねない意見もありました。

Q. 【危険】【注意】【安全】の各イメージに最も当てはまる色をお選びください(上位3項目・複数回答)

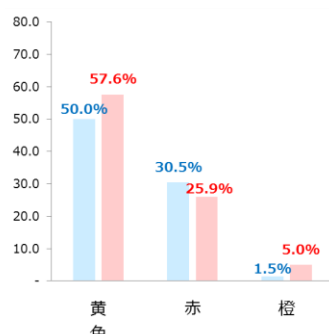
※60歳以上 N=1000、30代：N=200、複数回答 [%]

■30代 ■60歳以上

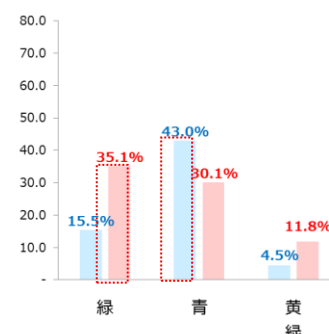
■「危険」な色



■「注意」な色



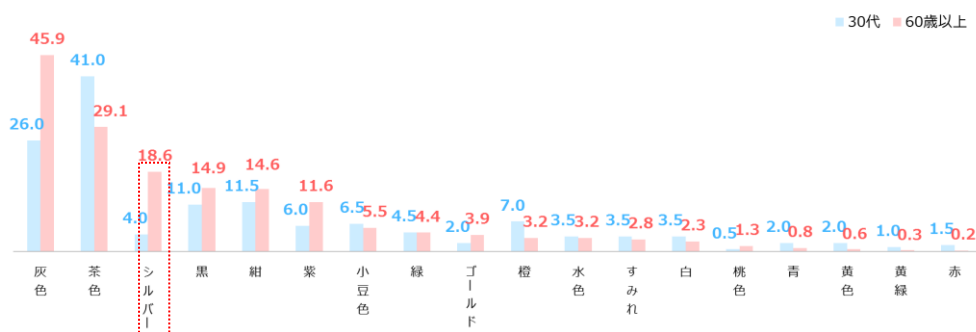
■「安全」な色



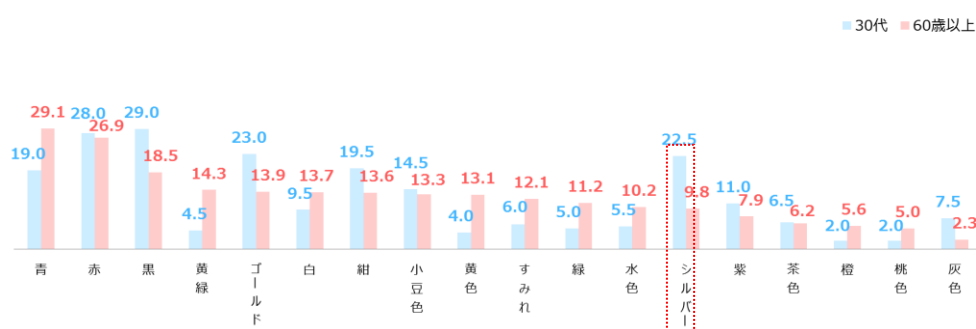
「危険」「注意」「安全」から想起する色は、60歳以上では「危険=赤(79.5%)」「注意=黄色(57.6%)」「安全=緑(35.1%)」と回答。30代では「危険=赤(72%)」「注意=黄(50%)」「安全=青(43%)」という結果に。【安全】の部分で「30代=青」「60歳以上=緑」と世代間でイメージの違いが出ました。

Q. 【地味】【恰好い】【哀しい】と思う色をお選びください（複数回答） ※60歳以上 N=1000、30代：N=200、複数回答 [%]

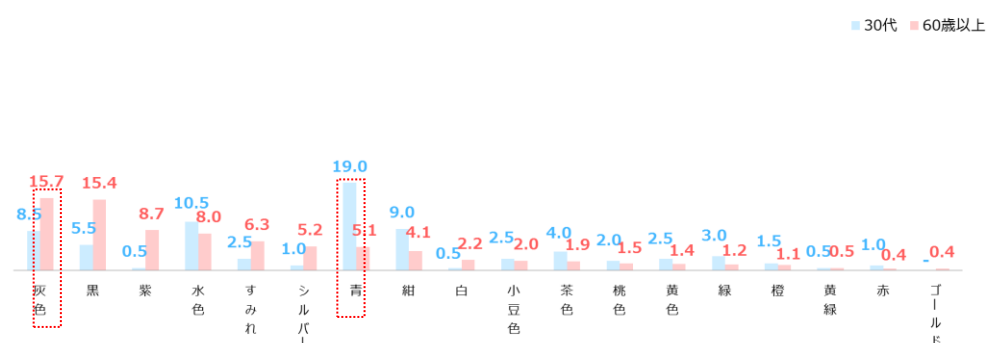
■ 【地味】と思う色



■ 【恰好い】と思う色



■ 【哀しい】と思う色



「地味と思う色」は、60歳以上は灰色（45.9%）が最も高く、茶色（29.1%）、シルバー（18.6%）の順に高くなる。30代では茶色（41.0%）、灰色（26.0%）、紺（11.5%）が高い。一方「恰好いと思う色」を聞くと、60歳以上は青（29.1%）、30代は黒（29.0%）が最も高くなる結果となった。また「哀しいと思う色」は60歳以上が灰色（15.7%）、30代は青色（19.0%）と大きく意見が分かれている。30代はシルバーを「恰好い（22.5%）」と感じる方が多いが、60歳以上はシルバーを「格好いい（9.8%）」と感じるよりも「地味（18.6%）」と感じる方が多く、年代での差異が生きている。

【視覚能力が衰える高齢者への自覚と注意喚起】一般財団法人日本色彩研究所 名取和幸 氏 コメント

一般的に加齢でさまざまな視覚機能の低下が現れます。例えば、視力の低下や老眼、色を見分ける力の低下、そして暗い場所で物を見る働きの低下などがその代表例です。今回の調査では「色の見えにくさを感じない」という回答をした高齢者が多くなりました。今回の調査のように単色では「色の見えづらさはない」と思っているようですが具体的なエピソードを読む限り、高齢者は日常生活において少なからず色の見分けにくさを経験していると調査結果から推察できます。

高齢者が把握しづらくなる階段などの段差、信号機の色、道路標識、服用している薬の色見分けなど、日常生活における危険性を回避できるよう視覚能力の低下への自覚を促すとともに、自治体や企業も色のユニバーサルデザインに一層取り組む必要があると思われます。

このリリースに関するお問合せや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。

内閣府認定 公益社団法人 色彩検定協会

担当：益田

E-mail: masuda@aft.or.jp TEL：06-6150-5055 FAX：06-6150-5051